

漢より書をとりて、
 山越江に自由を遊び
 し。十二歳の時に世上の二十五年の者、精力強く、脊
 骨よく、人々の思ふよりも、聰明博識ありと
 内外の経典古来の安法一を知りて、善く謀略を
 で、時々の事、おもひも、やうの昔より、法華經の持者
 として、五臺の教生、誦誦とせむ、その罪の者を救ふこと
 なり。常に、往來お戒めて、神社佛寺を崇め、信心を端け、
 が義なきは供して、奥州の境座王、獄として、こゝろを奪ふより
 ぬれ、は、権現をたし、金念尊ふより、分ちあつて、棄地

とて月山を歩くと肩をこぎつゝ悔のうきやうして世間をまは
 るれども夏も雪絶えどして秋も花の咲くくみは
 拙くけふれをまづも面ふ事や一帯の煙の立ちけき
 地獄焼くも世より上は獄の岩穴の入口に文斗して胆を
 りうに道あり山峯内の僧は面ひけきば是は人定を真
 達とて工なりとやうに詠起は見えぬとも昔より入る
 人もあはれなり終結の行者今日持律してけしき法施の
 誦経唱呪はきき内より管絃の音はきき終は穴より
 中へ入りたる人生きて生きて再び帰るるなりと申し